

しつけの主役は家庭です

―家庭の役割を見直しましょう―

子どもたちの心を豊かなものにするうえで、最も大きな役割を果たすのが家庭です。家庭内の環境は、良い面でも悪い面でも子どもの成長に大きな影響を与えます。文部省の中央教育審議会の中間報告では、家庭に対して次のような提案をしています。ここに書かれていることは当然のことのように思われがちですが、普段は心がけていないことも多くあるのではないのでしょうか。改めて自分の家庭を見直してみてください。

家庭のあり方を

問い直そう

思いやりのある

円満な家庭をつくる

子どもたちは「家族みんなが楽しく過ごす」ことを一番に望んでいます。明るい円満な家庭は、子どもの心を豊かなものにします。

子育ては夫婦で協力する

しつけの方針などは夫婦で足並みをそろえましょう。また、父親の存在感は大いいものです。「子どものことは妻まかせ」ではなく、父親も積極的に子育てに参加し、夫婦が協力して行いましょう。

家族の会話を増やす

家族が顔をそろえる機会を増やすだけ多くつくりましょう。会話を増やすことで家族のきずなが深まります。



悪いことは悪いと

しつかりしつけよう

しかる理由は明確に

しかるときは、気分や感情に流されず一貫性を持ちましょう。

間違いはしつかりと正す

善悪の区別は幼少時からしつけ、悪かったらすぐに正すようにしましょう。また、親自身が身をもって示すことも必要です。

思春期の子どもから逃げず

正面から向かいあう

「思春期とはそんなもの」と逃げてはいけません。自立を促すとともに、自らの責任を自覚させるようにしましょう。

自分の責任に気付かせる

後片付けをきちんとさせたり、異年齢集団の活動に参加させたりして、自立心や責任感を持たせるようにしましょう。



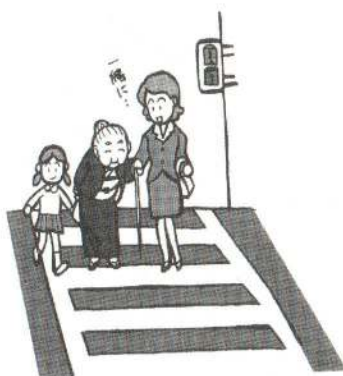
思いやりのある 心を育てよう

祖父母を大切にする

親の姿を見せる

親を思いやる心は、他人を思いやる心の基礎になります。まず親がその姿を示しましょう。

手助けの必要な人を思いやる



高齢者や障害者が手助けを必要としている場合、自然に動けるよう、親がまず模範を示しましょう。

差別や偏見を許さない

子どもがいじめに加わっていたり、他人を差別するようなことがあった場合、許されない行為であるということをしっかりと教え、諭しましょう。